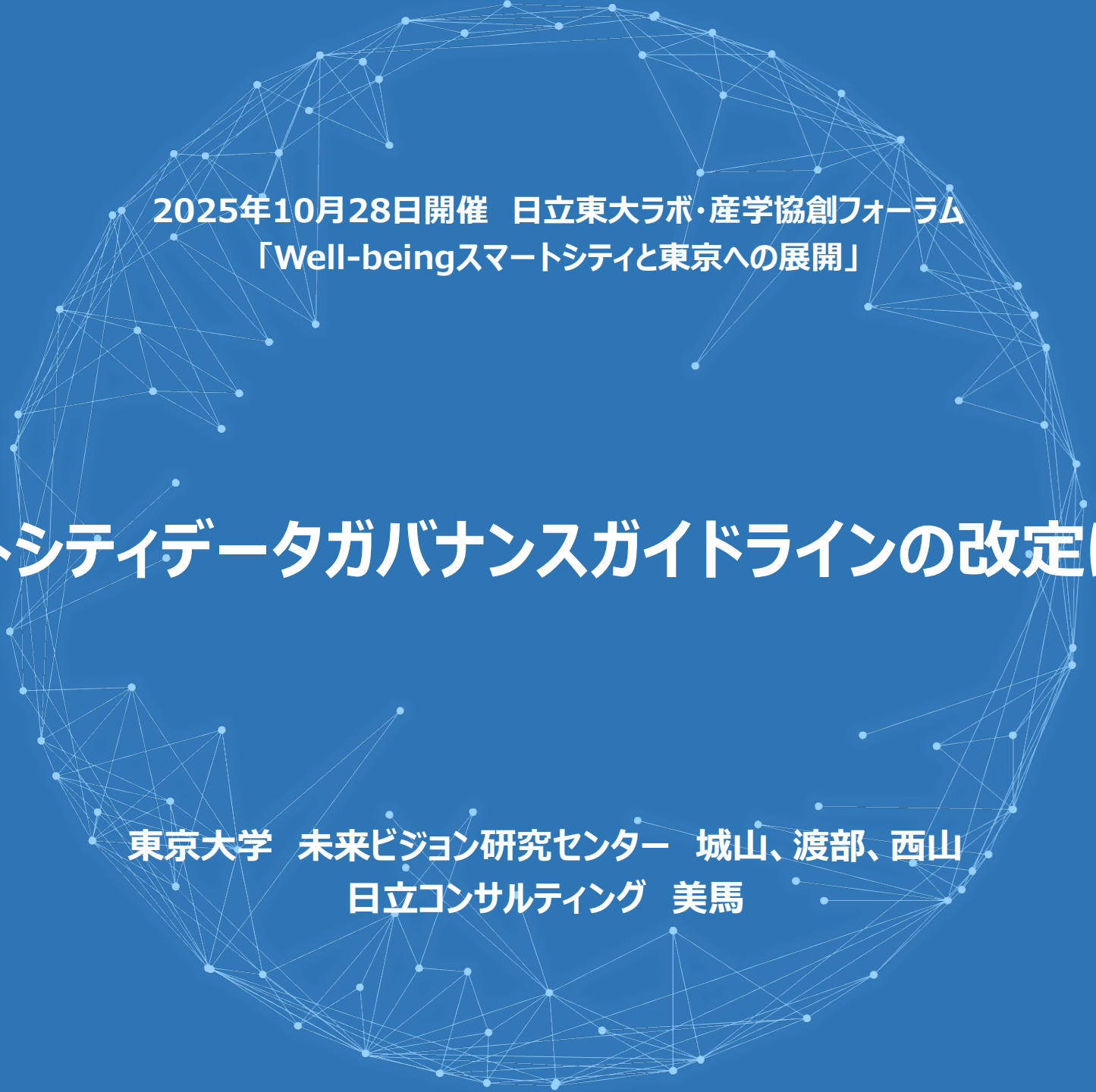




2025年10月28日開催 日立東大ラボ・産学協創フォーラム
「Well-beingスマートシティと東京への展開」

スマートシティデータガバナンスガイドラインの改定に向けて

東京大学 未来ビジョン研究センター 城山、渡部、西山
日立コンサルティング 美馬

- スマートシティにおいてICTやデータ活用を先行させるのではなく、「人間中心」の本来の価値を創出できるよう、スマートシティの推進におけるデータガバナンスの考え方をとりまとめ、**2023年3月にリリース**。
- 策定にあたっては、データガバナンス研究ユニットの有識者だけでなく、三井不動産等、スマートシティに関わる企業、中央省庁、アカデミア、OECD等、外部の有識者との議論を実施。
- **2024年7月**にWell-being、生成AI、データ品質等の観点を踏まえて改定。

スマートシティデータガバナンス ガイドライン改定版 2024 年 7 月 25 日 東京大学未来ビジョン研究センター データガバナンス研究ユニット 渡部俊也（未来ビジョン研究センター 教授） 美馬正司（株式会社日立コンサルティング ディレクター）	目次 1. 本ガイドラインの趣旨 1 1.1. 背景と目的 1 1.2. 想定読者 1 2. スマートシティの考え方 2 2.1. スマートシティとは 2 2.2. スマートシティの捉え方 3 2.3. スマートシティの推進組織 3 3. データガバナンスの考え方 5 3.1. Well-Being とサービスが最初 5 3.2. データを起点とした捉え方 10 3.3. アジャイル・ガバナンス 11 3.4. 人間中心のガバナンス 12 3.5. トラストの考え方 14 3.6. DFFT 16 4. データガバナンスのプロセス 17 4.1. スマートシティのプロセスとデータガバナンス 17 4.2. データガバナンスのプロセス 18 4.3. ステークホルダーの巻き込み 19 5. データガバナンスプロセスの解説 21 5.1. 事業概要の整理 21 5.2. 関係法令等の整理 23 5.3. リスク分析 25 5.4. ルールの設計 33 5.5. 運用・評価 38
---	---

出典 : https://ifi.u-tokyo.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/07/report_240313_240725ver.pdf

現場の知見のフィードバック

社会環境変化の考慮

参照資料等の更新の反映

- スマートシティへのインタビュー推進中
 - ✓ 9月12日 日立市 日立製作所協創（交通）
 - ✓ 9月16日 日立市 日立製作所協創（ヘルスケア）
 - ✓ 9月19日 南紀白浜空港
 - ✓ 9月22日 福岡地域戦略推進協議会
 - ✓ 9月29日 柏の葉（データ連携基盤、ヘルスケア）
 - ✓ 10月1日 柏の葉（AIカメラ、みんスタ）
 - ✓ 10月6日 日立市 日立製作所協創（エネルギー）
 - ✓ TBD 高輪GW
- 参照資料のアップデート（今後予定）
 - ✓ 内閣府 スマートシティリファレンスアーキテクチャ
 - ✓ 内閣府 データ連携基盤に求められる互換性・安全性・プライバシーに関する事項
 - ✓ 内閣府 データの利活用にあたってPIAをルール・仕組み化する際の検討ポイント
 - ✓ デジタル庁 データガバナンス・ガイドライン
 - ✓ IPA データガバナンス読本

- ✓ 地域によって取組のレベルに違いがあり、**低いレベルの段階からデータガバナンスというのは敷居が高く**、理解を得られない。
- ✓ スマートシティについては、**各ステークホルダー側でデータガバナンスに配慮**している場合もある。例えば、データを提供する事業者側では匿名加工や統計化を行い、リスクを十分に低減している。
- ✓ 人的ネットワークの**素地のない地域ではスマートシティがうまくいかない**可能性が高い。
- ✓ 民間ベースでオプトインで行う取り組みについては**リスクがそれほど高くない**と考えられる。
- ✓ **ステークホルダーとの調整**はやはり重要であり、業界団体も含め**丁寧にコミュニケーションをして進めることは重要**である。
- ✓ **データ連携基盤を起点とすると**、スモールスタートが難しく、必要性のないデータ連携を検討する**問題がある**。
- ✓ スマートシティにおけるサービスについては、民間が提供する場合、当初からビジネスとして成立することは難しいと考えられ、その便益や事業者間の関係性について**調整するような組織が必要**である。
- ✓ スマートシティの**民間サービスは基本的に横展開しないと**その地域で閉じる形で**収益化することは難しい**と想定される。したがって、他の地域で実績のあるものを活用することも選択して検討することが望ましい。その場合、データガバナンスについても一から検討するのではなく、**他地域のモデルを活用することが有効**と考えられる。
- ✓ **データガバナンスにもコストがかかる**。という観点が必要かも知れない。
- ✓ ガイドラインが厳格すぎると萎縮や実証実験の障壁となるため、最低限の基準を守りつつも柔軟性を持たせる必要がある。**リビングラボ等を行うことで、過剰なデータガバナンスになることを回避**することも期待される。
- ✓ リビングラボを行うには、**一過性の取組では駄目**で、継続性も担保しないと成果は得られない。
- ✓ **企業間の契約に基づく取組、企業の従業員の協力による取組**等、リスクの低い取組ではデータガバナンスの負荷を軽減でき、企業間取引等は横展開も容易である。
- ✓ **相互にメリットがでない**、一方的にデータを取得するような仕組みはリスクが高く、**データガバナンスの負荷が高まる**。

規模や段階に応じたデータガバナンスの推進

- データガバナンスは重要ではあるが、スマートシティの規模や段階に応じた検討が不可欠
- スマートシティのサービスの内容やレベルに応じてデータガバナンスの必要性は変化

民間や他地域のノウハウの活用

- 民間サービスを活用して、オプトインで展開するのみであれば、最低限の確認等でも対応可能
- 他地域のノウハウ活用する場合、データガバナンスも流用することを検討

適切なデータガバナンスの実践

- 扱うデータの種類やサービスの内容、データ連携の有無等で求められるデータガバナンスのレベルも変化
- 過剰なガバナンスにならないように、リビングラボ等を活用し、住民の意向を確認することも有効

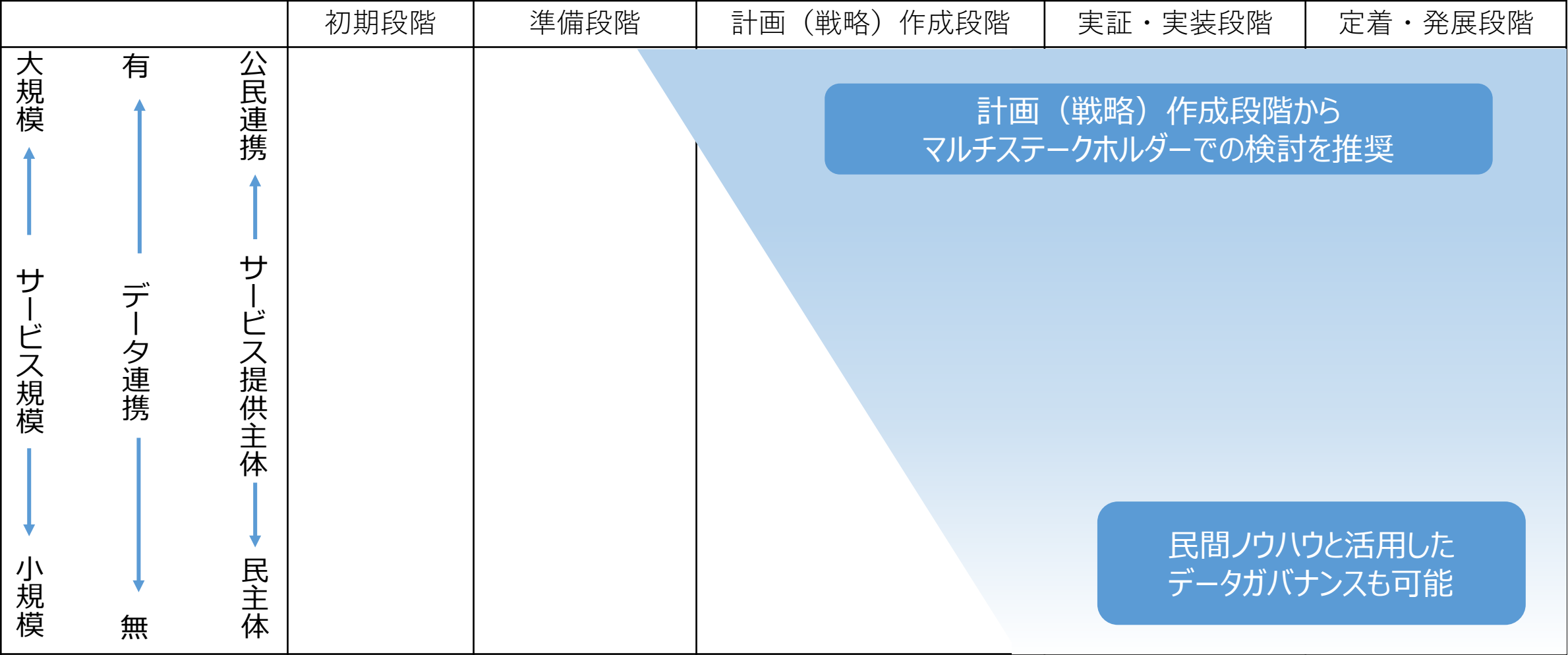
人的なネットワークが重要

- マルチステークホルダーでのガバナンスには人の信頼関係の素地が必要
- リビングラボ等が機能するためには、一過性ではなく継続的な人的ネットワークの形成が重要

アーキテクチャを考慮したデータガバナンス

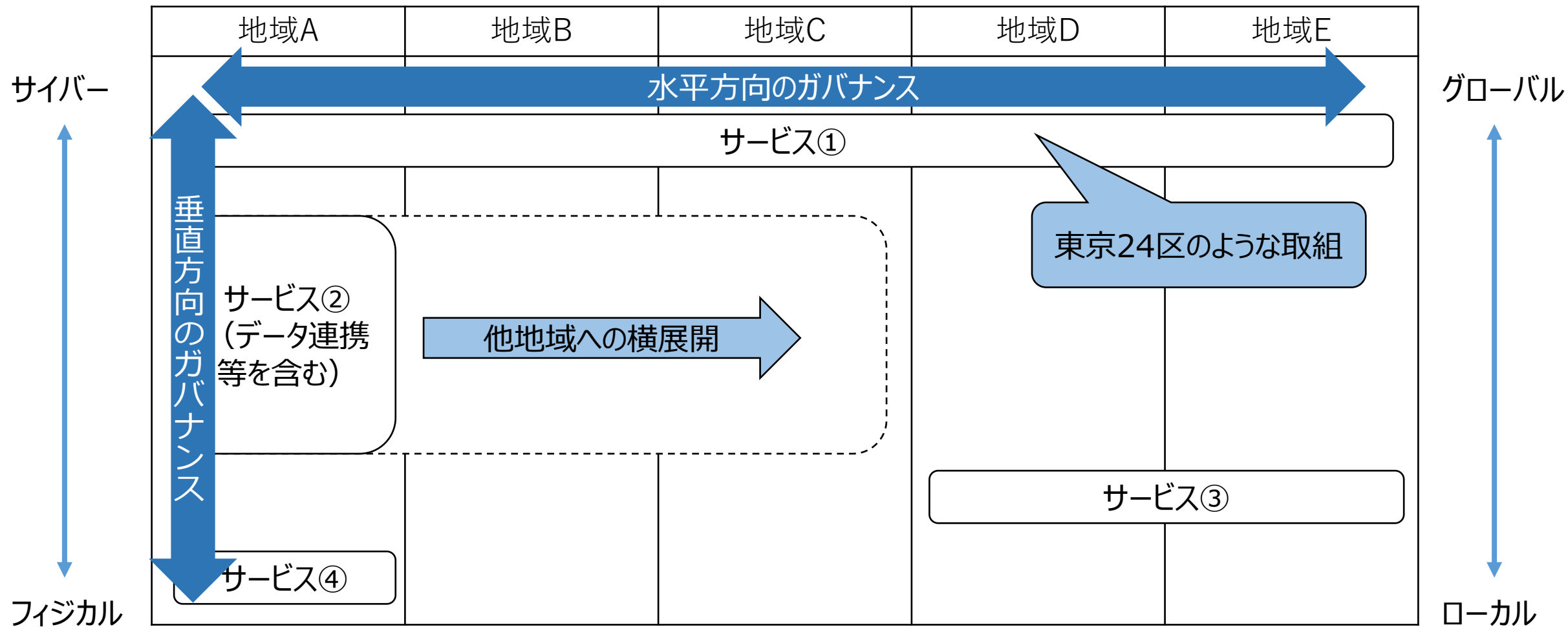
- 地域横断の共通するサービスはプラットフォーム化かすることで地域に閉じないガバナンスも必要
- 垂直、水平、両方の観点からの適切なガバナンスが重要

規模、データ連携の有無、サービス主体等によりデータガバナンスの取組を軽微にすることは可能



※大規模、中規模でも他の地域で実績のある仕組みを活用する場合は、そのデータガバナンスモデルを活用することで効果的な対応が可能

- ガイドラインでは垂直方向（地域単位）でのガバナンスについて示しているが、サービスの特性を踏まえ、水平方向でのガバナンス（サービス単位で地域をまたがった共通ルールによるガバナンス）も考慮が必要
- 共通したサービスのプラットフォーム化により担い手が異なり、ガバナンスも多層的（レイヤー構造）になる可能性



- 仲介組織の重要性
 - ✓ ベンチャーと大企業間の取引等、難しい側面をモデレートする主体が必要
 - ✓ ライバル事業者間の協業等を実現できる場合も有
- ステークホルダーマネジメント
 - ✓ ステークホルダー等を整理して対応することは不可欠
 - ✓ 医師会に配慮して、時間外にオンライン診療を展開する等、利害調整を実施することも重要
 - ✓ 人的ネットワークを有する人を担当としてアサインすることで効果的な推進
- 初期設定の慎重な検討
 - ✓ データ連携基盤を所与として検討すると過剰な内容になり、データガバナンスが高負荷。必要性を踏まえた検討が不可欠
 - ✓ すべてをゼロベースで検討するのではなく、他の地域のノウハウを活用できないか検討







2024 年 10 月 9 日
報道関係者各位

神戸市
株式会社キッズライン
株式会社ギックス
BIPROGY 株式会社
三井不動産株式会社
一般社団法人 UDCK タウンマネジメント

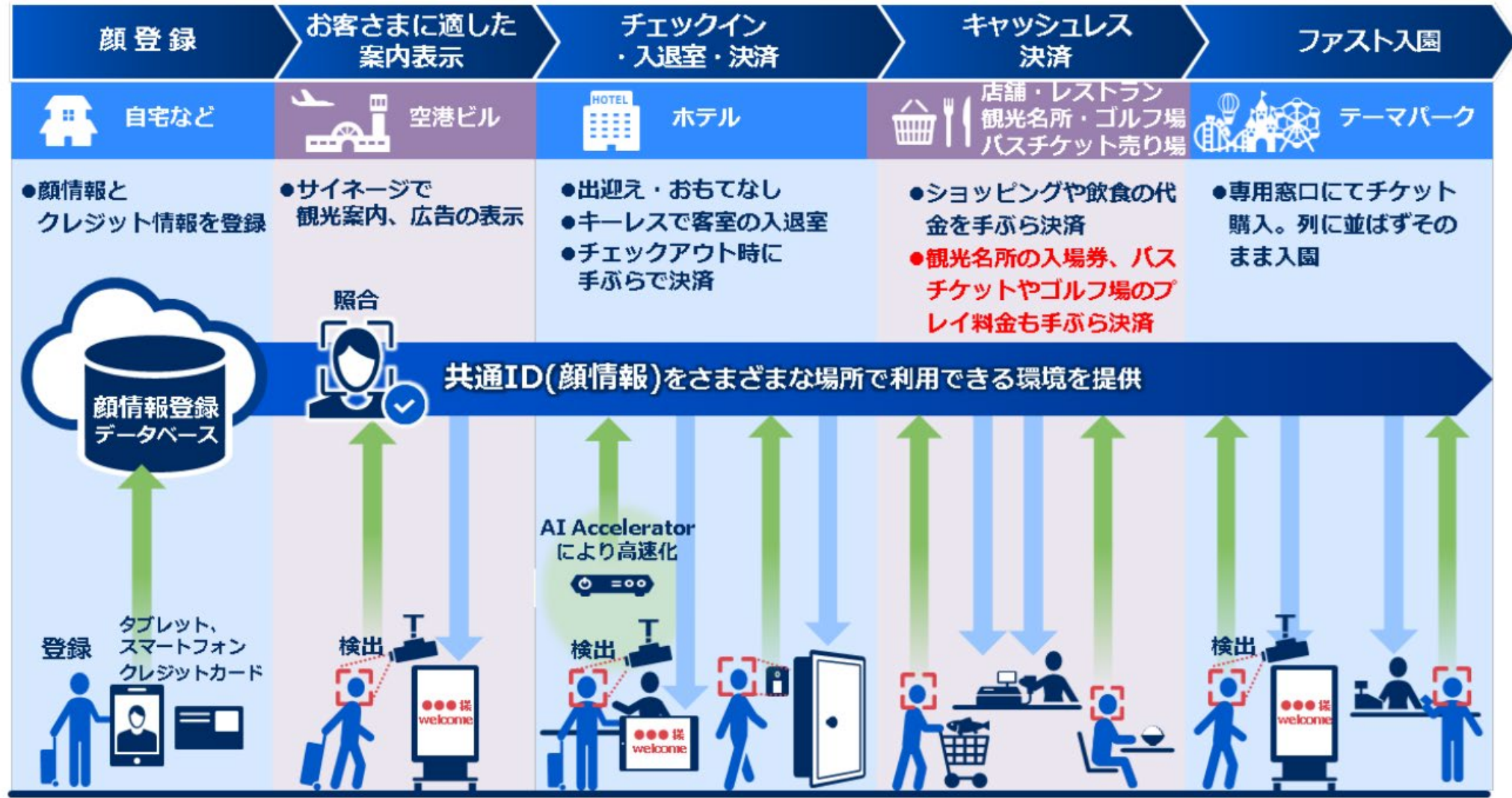
神戸市が都市OSを共同利用により初期費用なく迅速に導入 都市OS導入のモデルケースとして費用対効果を検証する

本リリースのポイント
● 神戸市は、柏の葉スマートシティ(千葉県柏市)で生まれた、住民の暮らしをより健康的でスマートにする都市OS「スマートライフパス」、「Dot to Dot」を導入。
● 柏市と都市 OS を共同利用することで、「初期費用負担がなく」、「導入後迅速にサービスを利用する」ことが可能に。都市 OS はデータ連携の仕組みを含み拡張性が高いことが特徴

出典：https://www.biprogy.com/pdf/news/nr_241009_2.pdf

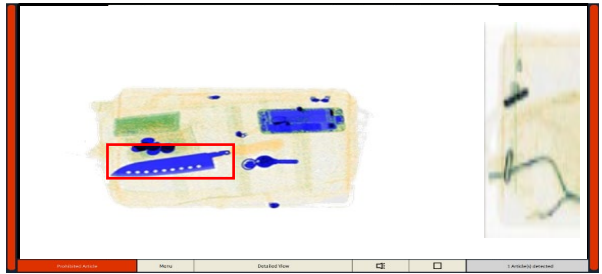
(参考) 南紀白浜では民間主体でオプトインで顔認証の実証事業
データガバナンスは民間主体

【南紀白浜エリアにおける IoT おもてなしサービス実証の概要】

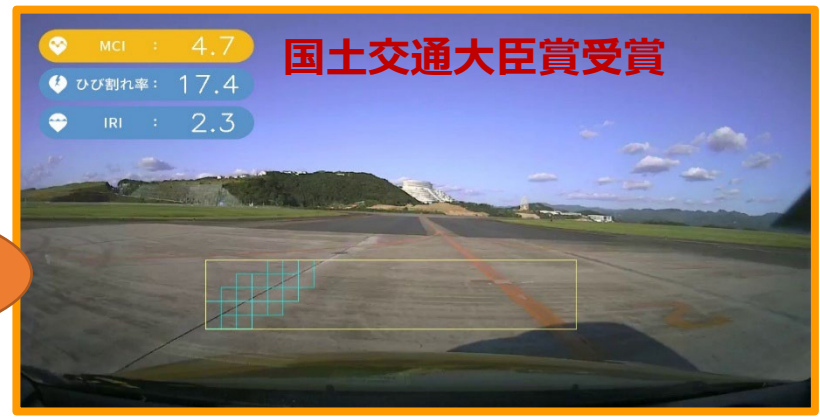


出典：南紀白浜空港資料

AI手荷物検査

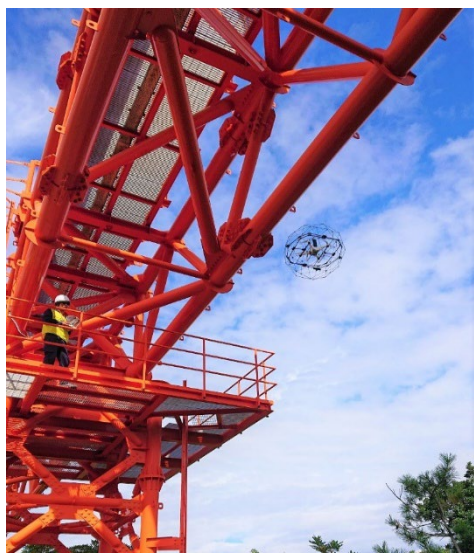


ドレコ点検

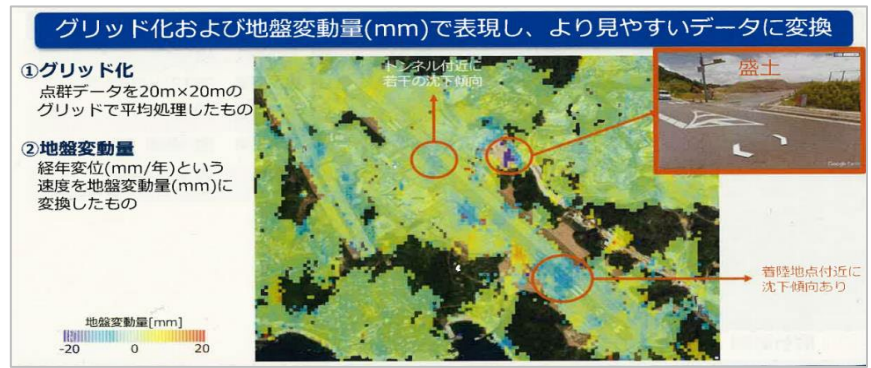


IoT先進空港

ドローン点検



スマホを活用した
点検台帳



(参考) 福岡市は屋台データをオープンデータとして公開し、LINEがサービス化



[よくある質問\(Q&A\)](#) [Language](#)     

[ホーム](#) [スマホサイトへ](#) [音声読み上げ](#) [あ](#) [ふりがな](#) [文字サイズ](#) [小](#) [中](#) [大](#)

Google 提供

🔍

[? サイト内検索について](#)

🚨 防災情報

🚒 救急医療・消防

くらし・手続き

子育て・教育

健康・医療・福祉

観光・魅力・イベント

創業・産業・ビジネス

市政全般

福岡市ホーム > 市政全般 > 主なプロジェクト > 屋台施策 > 『屋台DX』が進化！～屋台公式LINEアカウントがますます便利に～
更新日: 2024年7月24日

『屋台DX』が進化！～屋台公式LINEアカウントがますます便利に～

LINEが教えます、
100の屋台からぴったりの1軒を！

福 FUKUOKA 岡

屋台DX



出典：福岡市『屋台DX』が進化！～屋台公式LINEアカウントがますます便利に～

ひたち小児オンライン医療サービス



「ひたち小児オンライン医療サービス」は、スマートフォン・パソコンなどでオンライン医療アプリ「LEBER」を利用し、チャットでの医療相談(無料)やオンライン診療(実質無料)を受けることができるサービスです

詳細は

ひたち小児オンライン医療サービス

で検索!





出典：日立市のサイト